

## (公社)東京都ペストコントロール協会50年の歩み

### 東京オリンピック

昭和39(1964)年第18回オリンピック東京大会で、昭和35(1960)年に誕生した東京都殺虫消毒同業組合が代々木選手村等オリンピック施設の害虫防除業務を受託しました。



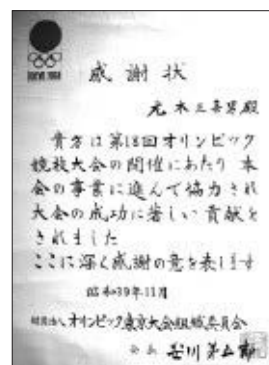
東京都による大型トラックの排気ガスを利用した粉剤散布



オリンピックスタジアム周辺の煙霧作業



三兼機による煙霧作業



オリンピック組織委員会からの感謝状

### 前身の東京都害虫ねずみ駆除消毒事業協同組合の誕生

都内に散在していた同業者組合の方々が集まり、行政の指導もいただき、大同団結に向けて会議を重ねられ、昭和43(1968)年8月14日、全理連ビルにおいて設立総会が開催され、都内の防除業者80社からなる東京都害虫ねずみ駆除消毒事業協同組合が誕生しました。

昭和46(1971)年に東京都害虫防除協同組合と名称変更しました。組合といってもその活動内容は、講習会や研修会など会員の資質向上、機関誌発行による情報提供、都民の害虫相談など、公益的活動が主体でした。

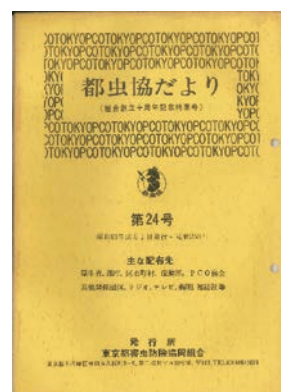


東京都害虫ねずみ駆除消毒事業協同組合設立（昭和 43 年）

## 組合創立 10 周年

都虫協だより昭和 53(1978)年第 24 号、組合創立十周年記念特集号目次

- ・ 12 人の侍 都虫協設立準備会 事務局 恩田武雄
- ・ 都虫協の体質と体系(その 2) 多摩支部 植木慎一
- ・ 老人の戯言 中央南支部 宇尾五郎
- ・ 三割の弁 中央南支部 島津幸生
- ・ 都虫協十周年所感 紅谷 敦
- ・ 十年一節 城東支部 林 庄一



都虫協設立に尽力した 12 人の侍(十周年記念特集号より抜粋)(社名はアイウエオ順)



(有) 足立消毒サービス  
植島和雄氏



イカリ消毒(株)  
黒沢聡樹氏



イカリ消毒(株)  
恩田武雄氏



エスロン害虫消毒本社  
岡田金之助氏



三共殺虫消毒(有)  
奥富藤吉氏



SPH 社  
植木慎一氏



(株) 中央社  
豊田清七氏



東洋燻蒸(株)  
宇尾五郎氏



東都防疫(株)  
藤森重己氏



日栄商工(株)  
末松博重氏



(資) みくに消毒所  
大森靖男氏



(有) 沼田衛生社  
加藤 秋氏





東京都害虫防除協同組合理事会 S52.2.10 於：中野サンプラザ

## 東京都ペストコントロール協会の誕生

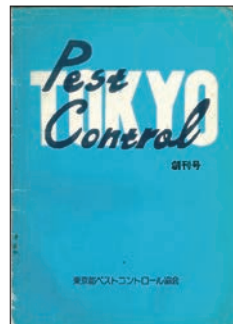
昭和55(1980)年12月4日の東京都ペストコントロール協会設立とともに、公益的な業務を引き継ぎ、全国団体である社団法人日本ペストコントロール協会に加盟し、日本全国の衛生行政にも大きな影響力を行使してまいりました。さらに昭和59(1984)年4月20日に社団法人として許可され、平成24(2012)年8月1日に公益社団法人として東京都から認可されました。

## 機関誌の発刊

昭和44(1969)年より「都虫協だより」が、昭和56(1981)年12月には機関誌「Pest Control Tokyo」第1号が発刊され、現在では75号となりました。事務局通信として昭和44(1969)年より「事務局だより」が発行され、「TOKYO PCO NEWS」に引き継がれました。



「都虫協だより」第6号  
昭和49(1974)年2月1日発行



「Pest Control」創刊号  
昭和56(1981)年盛夏発行



「都虫協だより」  
昭和54(1979)年6月20日発行



「TOKYO PCO NEWS」  
平成14(2002)年8月13日発行

## 従事者研修会

昭和56(1981)年12月、ビル管理法に基づく「第1回ねずみ・衛生害虫防除業従事者研修会」を社団法人東京ビルメンテナンス協会との共催で281名の参加を得て科学技術館サイエンスホールで開催。以後、毎年開催し、平成30(2018)年には第38回を数えるに至りました。会場は、その後日本環境整備教育センターを経て、平成30(2018)年はエッサム神田ホールで開催し、受講者数は協会員88名、非会員18名、行政26名、合計132名でした。



第6回従事者研修会（昭和61年）



第38回従事者研修会（平成30年）

## リーフレットPCOシリーズの発行

昭和57(1982)年にはパンフレット「衛生動物と病気」「みぢかにいる衛生・不快害虫図説」を発行。同時に、リーフレットPCOシリーズ第1号として「密かに増えているシラミ」を皮切りに「マイホームをねらうシロアリ」、「家屋内にいるダニ」、「不潔の象徴ゴキブリ」、「都会で増殖を続けるネズミ」、「刺されると危険なハチ」、「みぢかにいる害虫 蛾の仲間」、「身近にいる毒虫 アリと甲虫」、「みぢかにこんなにもいるカビ」、「空とぶ汚染源ドバト」、「小さな吸血鬼 蚊」、「知って得する有害生物対策」を発行し、各区の衛生行政窓口やムシの日イベントで配布し、都民への啓発に努めてまいりました。



リーフレットPCOシリーズ

## 害虫相談所の誕生

昭和61(1986)年には都内54の会員の協力を得て害虫相談所を開設し、相談員研修会を開催し資質の向上を図るとともに、都民からの害虫相談の応対にあたり、初年度は584件、30周年にあたる平成11(1999)年度は1,620件、その後伝染病予防法の廃止とともに保健所からの紹介も加わって、平成29(2017)年度には8,047件と急増しました。昭和61(1986)年に発行した「PCOのための害虫相談員ハンドブック」を平成29年11月に東京都協会技術委員会と日本協会技術委員会の協同編集により改訂版を発行しました。





害虫相談所ワッペン



害虫相談所看板

## 緊急災害衛生隊の発足

昭和63(1988)年、都からの水害等災害対策への要請に備えて、緊急災害衛生隊を組織しました。平成元(1989)年8月の渋谷区をはじめとして、中野、新宿、港、目黒区と契約により、台風による水害など災害時に緊急出動し、殺菌消毒業務による環境衛生保持に努めました。

平成17年8月  
中野区



殺菌消毒剤の散布作業

## 20周年記念式典

昭和63(1988)年12月12日、京王プラザホテル4階扇の間において、第9回通常総会終了後、創立20周年記念式典及び祝賀会を行いました。

## 第6回日本ペストロジー学会東京大会

平成2(1990)年、第6回日本ペストロジー学会東京大会は、「きゅりあん」において田中生男大会長で開催されました。山崎久美子先生による「不快とストレス」の特別講演がありました。



第6回日本ペストロジー学会  
東京大会

## ムシの日イベント

日本協会が平成4(1992)年には6月4日を「虫の日」と定め、東京都協会では新宿駅構内でパネル展示やスズメバチのビデオ放映を行い、マスコミの取材もあって大きな反響をいただきました。その後は毎年、中野区役所前、新宿西口都民広場、新宿ステーションスクエアで行いました。平成18年より各区が開催する健康衛生展や区民・環境まつりに参加することとし、平成29(2017)年度は、あきる野環境フェスティバル、西東京市環境フェスティバル、府中環境まつり、調布市環境フェア、羽村市環境フェスティバル、東大和市環境市民の集い、きよせ環境・川まつり、こだいら環境フェスティバル、みなと区民まつり、中央区健康福祉まつり、むさしの環境フェスタ、日の出産業まつり、町田市総合健康づくりフェアと地域のイベントとして広がりました。

### あきる野環境フェスティバル



### 西東京市環境フェスティバル



### 府中環境まつり



### 調布環境フェア





## 羽村市環境フェスティバル



## 東大和市環境市民の集い



## きよせ環境・川まつり



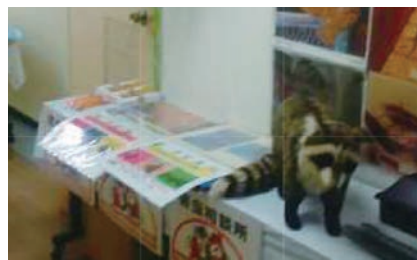
## こだいら環境フェスティバル



## みなと区民まつり



### 中央区健康福祉まつり



### むさしの環境フェスタ



### 日の出産業まつり



### 町田市総合健康づくりフェア



## 環境フェア

平成12(2000)年からは環境フェアとして東京ドームプリズムホールにおける東京都環境衛生営業指導センター及び環境衛生同業組合が共催する第6回東京環境フェア、平成13年はFOOD SHOP 2001、第1回生活衛生関係営業振興展(東京都立産業貿易センター)、平成14～17(2002～2005)年はHOTEL JAPAN(東京ビッグサイト)、平成24(2012)年からは東京都環境衛生協会の環境フェスティバル(新宿駅催し広場、上野公園広場)などに出演しています。

## 25周年記念式典・懇親会

平成6(1994)年12月13日、京王プラザホテルにおいて25周年記念式典・懇親会が挙行政され、講演にはフジテレビ解説委員の竹内貞男氏にお願いしました。



25周年記念式典



## 第10回日本ペストロジー学会東京大会

平成6(1994)年第10回日本ペストロジー学会東京大会は、東京都都民ホールにおいて三原實大会長、三宅弘文実行委員長で開催されました。特別講演は梅谷献二先生、シンポジウムでは「ゴキブリ防除のこれまでの10年、これからの10年」の講演がありました。



第10回日本ペストロジー学会東京大会と懇親会風景

## セアカゴケグモ騒動

平成7(1995)年、セアカゴケグモが大阪で発見されて大きな騒ぎとなりました。東京都PCO協会も同年12月15日都職員や報道関係者に同行し、江東区の公園やコンテナ埠頭地域などを数回に分けて調査をしました。その結果、セアカゴケグモは発見できませんでしたが、近縁種のハイイロゴケグモを発見しました。

## 殺虫消毒業取締条例の廃止

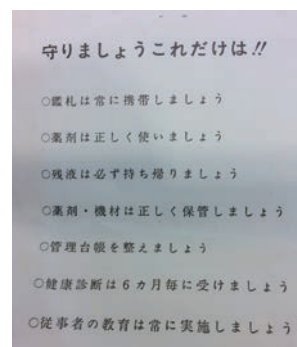
鑑札制度を定めた殺虫消毒業取締条例の廃止に伴い、平成7(1995)年から、当協会員以外の防除業者の実態を把握するとともに、その資質向上を図るため、東京都と共催で殺虫消毒講習会を開催しました。



都庁5階大会議場における殺虫消毒講習会



殺虫消毒業鑑札(左)とバッジ(右)



殺虫消毒業者への注意事項

## 第30回ねずみ衛生害虫駆除研究協議会(ペストコントロール・フォーラム)

平成8(1996)年2月6日・7日、国立教育会館虎の門ホールで開催。その事務局を引き受けました。今回より「ペストコントロール・フォーラム」のネーミングが採用となりました。

殺虫剤について正野俊夫先生の特別講演、セアカゴケグモについて加納六郎先生の緊急講演、さらに「都市環境とアレルゲン生物」の講演と「ビルのクマネズミと対策」のシンポジウムがありました。



第30回ペスト  
コントロール・  
フォーラム



「ビルのクマネズミと対策」の  
シンポジウム

## ブロック会の開催

平成10(1998)年には、特別区及び多摩地域の会員を5つのブロックに分け、ブロック会議を開催しました。この会は会員の生の声を聞き、協会運営に取り入れていくとともに、協会活動に積極的に参加していただくという目的でした。各ブロックとも大変盛り上がり目的通りの成果を得ました。平成24(2012)年11月30日にはよみうりゴルフ倶楽部で第100回PC会を開催し、終了後、立川で合同ブロック会を開催しました。最近ではY's(ワイズ)新宿エステック情報ビル店で合同ブロック会を開催しています。



合同ブロック会(平成30年7月18日)

## 感染症予防衛生隊の誕生

東京都特別区及び多摩地域の市町村は伝染病予防法に基づいて衛生班を組織し、器具や薬品を備蓄し、住民の指導及び駆除の実施を行っていました。また、東京都は東京都防疫所で伝染病患者宅の消毒及び患者の搬送を行っていました。しかし、平成11(1999)年に感染症法の制定にともない、東京都防疫所は廃止され、そ族昆虫対策と合わせて区市町村が対応に当たることとなりました。



その結果、殺虫剤や資機材の備蓄義務がなくなり、市町村のそ族昆虫専門職員、薬剤の配布が急速に減少していきました。さらに駆除にあたる職員が急減したため、これに代わって当協会は平成10(1998)年9月、感染症対策特別委員会を設置し、感染症予防衛生隊設置の検討に入りました。

平成11(1999)年4月、全国に先駆けて感染症予防衛生隊を設置し、説明会の開催と組織及び運営に関する規則及び細則を制定しました。また、感染症消毒作業マニュアルを編集し、衛生隊員に配付しました。さらに、平成28(2016)年には感染症対策実施計画を策定、隊員は年2回の感染症講習会の受講、社内講習会の開催、消毒用資機材の準備が義務化され、これらの実施状況を1月末までに書類で報告、その結果を踏まえて予防衛生隊の登録が毎年見直されることとなりました。現在、18社が登録しています。



感染症予防衛生隊説明会と講習会



感染症講習会 (2018年5月28日)



着脱訓練 (2017年10月13日)

## 30周年記念式典・懇親会

平成11(1999)年12月3日、京王プラザホテルにて会員・賛助会員152名、招待者83名の参加をいただき開催しました。祝辞のあとコンピューター映像により協会30年の歩み、PCOアンケート、会員が選んだPCO十大ニュースが上映されました。記念式典に続いて政治評論家・岩見隆夫氏の「2000年の政治展望」の講演をいただきました。



30周年記念式典・懇親会

## 東京都と「蚊が媒介する感染症の発生に備えた蚊の駆除業務等に関する協定」の締結

平成11(1999)年、ニューヨークでウエストナイル熱患者が発生、全米に拡大していきました。東京都協会は「蚊が媒介する感染症の発生に備えた蚊の駆除業務等に関する協定」を平成12(2010)年3月26日付けで東京都と締結し、感染症対応マニュアルの作成、研修等を行うこととなりました。

平成13(2011)年、東京都と「広域サーベイランスにおける蚊の捕集装置の設置、回収及び捕集した蚊(検体)の搬入委託契約」の締結により、6月～10月までの9回(平成28年から10回)、大井ふ頭中央海浜公園ほか15所においてCDCトラップ(ドライアイス付)の設置と回収を担当しています。

さらに、代々木公園におけるデング熱国内発生を受けて、平成17(2015)年、東京都と「重点サーベイランスにおける蚊の捕集及び検体の搬入委託契約」の締結により、4月～11月まで(5月～10月は月2回)、代々木公園ほか8カ所の公園においてドライアイスを用いた電池式ライトトラップによる蚊成虫(4月・11月は8分間スリーピング法)と幼虫採集を行っています。

ウイルス検査は東京都健康安全研究センターが行っており、その結果は同センターのホームページ(<http://www.tokyo-eiken.go.jp/mosq/>)に掲載されています。これまでにデング熱をはじめ蚊媒介性感染症ウイルス抗体は検出されておりません。



雨水枡における幼虫採集



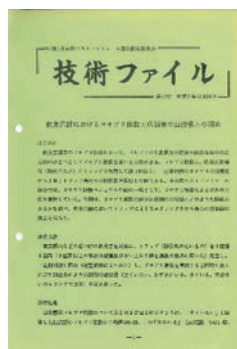
8分間スリーピング法による蚊成虫調査

## IPMの幕開け

田中生男先生を顧問とする技術委員会では、飲食店舗におけるゴキブリ指数を調べ、店舗に出没感のアンケートを行い、その結果を技術ファイル第19号(平成6(1994)年12月28日)に掲載しました。この出没感別ゴキブリ指数が「ゴキブリ防除基準」として公表され、PCOのIPMへの道筋の第1歩となりました。その後、日本ペストコントロール協会では、平成10年度研究図書等委員会で、総合防除(IPM)の推進が示され、平成14(2002)年5月24日の通常総会においてIPM宣言が採択されました。

平成15(2003)年に建築物衛生法の施行規則が改正され、「6ヵ月以内ごとに1回、調査を実施し、調査の結果に基づき、ねずみ等の発生を防止するため必要な措置を講ずること」となりました。

平成15(2003)年から3年間、厚生労働科学研究「建築物におけるねずみ・害虫の対策に関する研究」によりIPMに関する調査・研究が行われ、平成18(2006)年3月に総合研究報告書が提出されま



技術ファイル第19号  
ゴキブリの出没感とゴキブリ指数



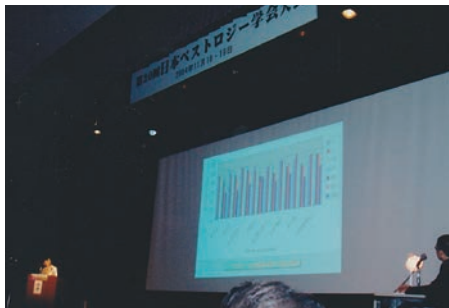
「ゴキブリ防除基準」の出版



した。この報告書はほぼそのまま「建築物環境衛生維持管理要領」「建築物における維持管理マニュアル」に盛り込まれ、平成20(2008)年1月25日付の厚生労働省健康局長通知により、IPMに基づくねずみ昆虫等防除の考え方、手順、施工方法等が具体的に示されました。

## 第20回日本ペストロジ学会東京大会

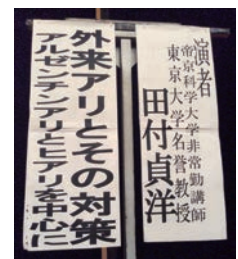
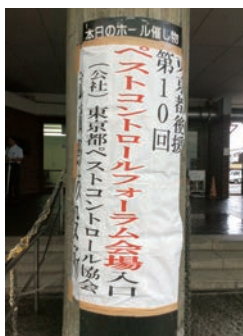
平成16(2004)年11月18・19日、第20回ペストロジ学会大会は、江戸東京博物館において岩本龍彦大会長のもと、事前登録369名、当日登録112名、大会専任スタッフ19名、合計388名の参加がありました。36題の講演、シンポジウムで「PMPの今日と明日－感染症とPMP－」をテーマに6名のパネリストによる講演がありました。ビアステーション両国での懇親会は230名が集い、松原たけし氏の歌が彩を添えて、ビヤホール始まって以来最高の賑わいで盛会裏に散会いたしました。中締め後に出発したナイトツアーも参加者からは楽しかったとの感想もいただいております。



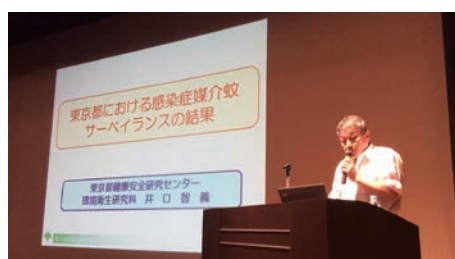
第20回日本ペストロジ学会東京大会と展示会場

## ペストコントロール・フォーラム東京の開催

協会内部の講習会をさらに発展させて、広く市民への啓発も行おうということで、平成18(2006)年より動物由来感染症フォーラムを武蔵野市との共催により開催。平成21(2009)年から「ペストコントロール・フォーラム東京」と名称を変えて、東京都の後援もいただき、シラミ、野生動物、スズメバチ、蚊などさまざまな有害生物をテーマに毎年開催しています。



平成30年  
ペストコントロール・  
フォーラム東京



## 40周年記念式典・懇親会

平成20(2008)年11月4日、創立40周年記念式典を東京会館で開催。記念講演は東京医科歯科大学名誉教授の藤田紘一郎先生に「笑うカイチュウ」をお願いしました。終了後FAOPMA東京大会ディナーパーティと合同で懇親会を行いました。



40周年記念式典プログラム

## 蚊駆除試験の実施

平成22(2010)年8月～9月、緒方一喜博士(当時協会理事)が中心となって、日本環境衛生センター、日本防疫殺虫剤協会と共同で武蔵野市の2寺院で蚊駆除試験を行いました。成虫駆除は水性乳剤50倍希釈を背負い式動力噴霧機で散布し、幼虫駆除はピリプロキシフェン0.5%粒剤を1箇所当たり0.5g散布しました。

防除結果は、ペルメトリン区では8分間スリーピングで散布前に34.5匹、直後1時間後0、10日間は3匹以下で、12日後で12匹を越えました。フェノトリン区では散布前22匹、直後0、4日後16匹に回復、エトフェンプロックス区では散布前49、散布後5.6匹、5日後14匹以上となりました。



武蔵野市の寺院における蚊駆除試験

## 東日本大震災被災地支援におけるハエ・カ駆除の出勤

東日本大震災では、平成23(2011)年4月中旬から防疫活動が開始されていましたが、気温の上昇とともにハエの大発生が問題となり、日本ベストコントロール協会は、(公社)日本国際民間協力会(NICCO)の資金協力を得て、5月5日以降10月末日までの約6か月間に、主な被災地15市町村に対して全国から約9000人余りが出勤しハエ・カの駆除を行いました。当協会からも、文華環境(株)、創研マネジメント(株)、イカリ消毒(株)、造園グリーンアートの4会員延べ9班が出動しました。各社からの報告は「東日本震災被災地支援における害虫防除作業報告書」として取り纏められました。



害虫防除作業報告書



ガレキの山に薬剤散布



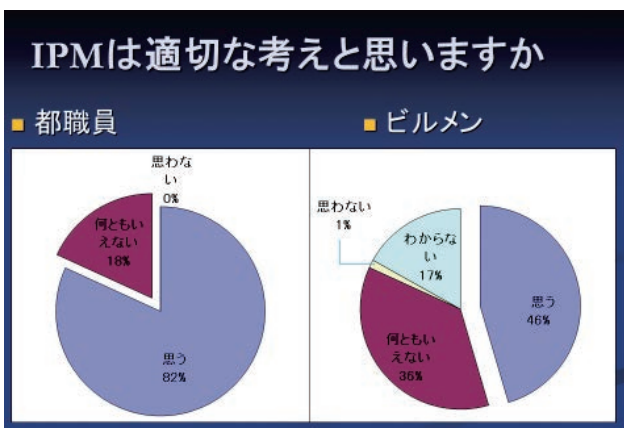
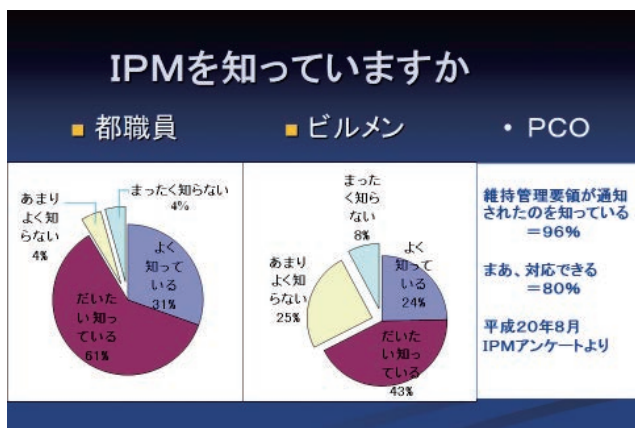
## ホームページ害虫相談コーナー

平成24(2012)年2月の技術委員会において、ホームページに都民向けの害虫相談コーナーの開設が決まりました。2018年までにハチ(小松謙之委員)、ハクビシン(春成常仁委員)、トコジラミ(春成常仁委員・木村悟朗委員)、シロアリ(元木貢副会長)、ハト・カラス(春成常仁委員)、ゴキブリ(小松謙之委員)、コウモリ(谷川力委員長・春成常仁委員)、ダニ(佐々木健委員)、ケムシ(谷川力委員長・春成常仁委員・木村悟朗委員)、蚊(小松謙之委員)、ヤスデ・ムカデ・ゲジ(小松謙之委員)、ダニ(佐々木健委員)、ノミ(木村悟朗委員)、ヘビ(佐々木健委員)、ハエ(木村悟朗委員)、コバエ(渡邊賢太郎委員)、食品害虫(峯岸利充委員)、衣類害虫(佐々木健委員)、アリ(伊藤弘文委員)、木材害虫(渡邊賢太郎委員)、ネコ(渡邊徹委員)などについての情報が掲載されました。



## IPMアンケート調査

平成24(2012)年8月、IPMに基づくねずみ等防除の実態と問題点に関するアンケート調査が、当協会会員、(公社)東京ビルメンテナンス協会会員、東京都及び特別区建築物衛生関係職員の協力を得て行われました。この結果は第27回日本ペストロジー学会大会で発表しました。



IPMに基づくねずみ等防除の実態と問題点に関するアンケート調査報告書

## 大島土砂災害で出動

平成25(2013)年10月16日未明、台風26号による記録的大雨に見舞われた伊豆大島で大規模な土砂災害が発生しました(死者・行方不明39名)。東京都大島町長の要請を受け、11月8・9日の2日間、2班5名で被災家屋35軒に対し、塩化ベンザルコニウム500倍希釈液と消石灰による消毒作業を実施しました。



準備



室内消毒



納屋外周床面・側面消毒



家屋外周消毒

## 代々木公園からデング熱の国内発生

平成26(2014)年8月20日、代々木公園で蚊に刺された埼玉県的女性がデング熱を発症、8月26日、感染研でデング熱ウイルスの感染を確認、8月27日厚労省が感染を発表、8月28日代々木公園での感染が確定により、約70年ぶりの国内発生となりました。当日午前11時30分頃、東京都建設局東部公園緑地事務所から蚊の駆除について協議したいとの電話連絡があり、会長と専務理事が都立代々木公園に赴きました。作業内容は渋谷門から半径75メートルの円内、面積は約18,000㎡の薬剤散布で、午後4時30分に機材・薬剤を準備して代々木公園西門に集合、午後5時から動力噴霧機によりエトフェンプロックス水性乳剤100倍希釈液を散布し、2時間程度で終了しました。

9月5日、成虫蚊からウイルスが分離されたため、都の要請により代々木公園を5ブロックに分け総勢18名でハンドスプレーヤーによる駆除を行いました。その後、4回の駆除を行い収束しました。さらに、患者は新宿中央公園、上野公園、新宿御苑、明治神宮外苑、青山公園、青山霊園、隅田公園、深沢2丁目の一部、中目黒公園、千葉市内の1か所からも発生(全国で計162名)したため、協会及び協会員が駆除に出動しました。



代々木公園における薬剤散布と報道陣

## エボラ出血熱で搬送の車輦消毒作業

平成26(2014)年11月7日及び12月29日、エボラ出血熱に感染している疑いがある者の搬送事例発生とのことで、東京都福祉保健局との「一類感染症患者輸送車両等の消毒業務に関する協定」に基づいて、感染症予防衛生隊が出動しました。幸い搬送者は陰性であることが判明しました。



## 新潟県鳥インフルエンザ消毒作業支援

新潟県は平成28(2016)年11月29日に関川村、同年11月30日に上越市の養鶏場でH5型の高病原性鳥インフルエンザが確認され、新潟県PCO協会に車両消毒を委託しました。関東甲信越地区本部の協定に基づき、ただちに東京都協会にも依頼が届き、(株)シー・アイ・シー、(株)三共消毒、(株)奥田建物管理、(株)中央社、創研マネジメントの5社が出動しました。なお、東京都協会は平成27(2015)年1月13日に東京都との間で「特定家畜伝染病緊急支援業務に関する協定書」を結んでいます。



新潟県鳥インフルエンザの車輛消毒作業

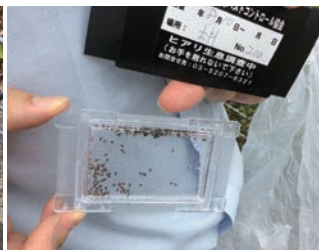
## ヒアリ調査

平成29年6月以降、国内の複数港湾において、特定外来生物であるヒアリが発見されたので、国は68港湾におけるヒアリ確認調査を実施することとなり、その業務を日本協会が受託し、各県協会が該当港湾を担当しました。当協会では東京湾の品川、大井、青海ふ頭を担当しました。

第1次調査、第2次調査、第3次調査、冬季調査と4回にわたりトラップを各回500か所に設置し、ヒアリの捕獲調査を行いました。いずれもヒアリは確認されませんでしたが、大井ふ頭で特定外来生物のアルゼンチンアリが多数捕獲されました。捕獲したアリの同定はイカリ消毒(株)の富岡康浩氏が担当しました。



ヒアリ調査 (トラップ配置)



アカカミアリ調査と駆除作業

## 第33回日本ペストロギー学会東京大会

平成29(2017)年11月9日(木)・10日(金)、武蔵野市立武蔵野市民文化会館大ホールにて、武蔵野市と共催、東京都の後援で第33回日本ペストロギー学会東京大会が開催されました(大会長:元木貢、実行委員長:玉田昭男)。大会運営には協会理事、技術委員、協会スタッフ、会員会社、麻布大学の協力をいただきました。参加者327名(学会員・協会員283名、行政26名、市民9名、招待者9名)、実行委員・スタッフ46名、展示21社でした。一般講演:24題、市民公開セミナーは「虫による感染症とアレルギー」をテーマに、小林睦生先生(国立感染症研究所名誉所員)、関なおみ先生(荒川区保健所健康推進課長)、夏秋優先生(兵庫医科大学皮膚科学教室准教授)の特別講演、シンポジウム「PCOの未来を探る」では、元木貢大会長の座長のもと、「IPMの現状と今後ー立入検査の現場からー」奥村龍一氏(東京都健康安全研究センター)、「IPMの問題点と今後の方向」木村悟朗氏(イカリ消毒株式会社)、「ITでPCOはどう変わるか」紅谷一郎氏(株式会社 東京三洋)から話題提供がなされました。



第33回日本ペストロジ学会東京大会と展示会場

## 「PCOのための害虫相談員ハンドブック」の編集・出版

昭和61(1986)年に出版した「害虫相談員ハンドブック」の改訂作業への協力を日本ペストコントロール協会技術委員会から受け、平成28(2016)年より技術委員が分担して「PCOのための害虫相談員ハンドブック」の編集を行い、平成29(2017)年12月に出版され会員に配布されました。なお、本事業は厚生労働省の業種別中小企業団体助成金制度により補助金が交付されました。



## 殺虫剤の模擬散布試験

平成29(2017)年12月、東京都薬用植物園にて殺虫剤(実際は水道水)の模擬散布試験を行い、防除にあたっての対象面積計算や機材準備時間、殺虫剤の散布時間と散布量、散布機器の比較検討を行いました。この結果は平成30(2018)年5月に開催された日本衛生動物学会帯広大会で発表しました。



模擬散布試験状況

## 殺虫剤の散布試験

平成30(2018)年8月、港区のホテル庭園にてエトフェンプロックス7%水性乳剤の50倍希釈液をバッテリー式背負い動力噴霧機を用いて殺虫剤の散布試験を行いました。8分間スリーピングで散布前には3カ所合計で92匹捕獲されていましたが、5日目まで2匹以内と効果が得られました。



8分間スリーピング

バッテリー式背負い動力噴霧機  
による殺虫剤の散布